

令和2年度

河瀬高等学校 学校評価

本年度の重点目標

- ・ 確かな学力を身につけ、自ら課題を設定して解決法を探る態度を育む。
- ・ 人権教育を通じて正しい倫理観と実践力を育み、よりよい社会の構成者を育成する。
- ・ 世界の課題を自分事として捉え、持続可能な社会の担い手としての素養を育む。
- ・ 個性や適性、発達段階に応じて進路について考える機会を設け、自らの未来を選択する力を育む。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	中高一貫教育校として、自学自習を目指し、発達段階に応じた教育活動を実施している。	B	B	B
	教育活動を公開・発表する機会を設け、改善につなげている。	A	B	B
2 学習指導	教員研修を行い、研究と修養に励んでいる。	A	B	B
	授業評価を積極的に行い、生徒の授業満足度を高めるよう努めている。	B	A	B
3 生徒指導	生徒指導上の問題行動を、生徒の更なる成長の機会と捉え、指導している。	B	B	B
	生徒の自治能力を高めさせ、生徒会諸活動の一層の充実発展を期している。	A	A	A
	生徒へのいじめに関するアンケート等を行ない、実態把握と指導等を行なっている。	B	B	B
4 進路指導	進路の手引きや有益な進路情報に基づいて、個に応じた丁寧な進路指導を行っている。	A	A	A
	生徒の将来の夢や希望が実現できるよう、各教科の指導を徹底して行っている。	A	A	A
5 特別活動等	中高一貫教育校にふさわしい異年齢による学校行事や交流活動を推進している。	B	B	B
6 学校図書館	図書便りの発行、蔵書の充実により図書館の利用充実に努めている。	A	A	A
7 保健・安全指導	教育相談やスクールカウンセラーを中心に、相談を受けやすい体制作りに取り組んでいる。	A	B	B
	登校指導・防災訓練など、生徒が安心して学校生活を送れるよう取り組んでいる。	B	B	B
8 人権教育	多様な題材を取り扱うことにより、多角的・多面的に人権について考える機会を設けている。	B	B	B
9 環境教育	「クリーンデー」を設け、環境美化活動への啓発を図っている。	A	B	B
10 事務・管理	施設・設備の安全点検を日常的に行うとともに、学校環境の整備に努めている。	B	B	B
11 その他 学校の取組み	より良い学習環境構築のため、PTA活動を推進している。	B	B	B
	教育の情報化を推進し、Society5.0に向けた教育を行っている。	A	A	A

- (注) ・ 評価表の見方： 6月 学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表
 10月 中間評価(自己評価)の公表(8月までの教育活動に対する中間評価) A B C Dの4段階評価で示す。
 3月 総合評価(自己評価・学校関係者評価)の公表(年間の教育活動に対する総合評価) A B C Dの4段階で示す。
 ・ 自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
 ・ A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。

令和2年度学校評価にもとづく改善点のまとめ

滋賀県立河瀬高等学校

学校経営について

- ・中高一貫教育校としての特徴を生かして取組んでいる内容をHPや学校案内により広報に努める。

学習指導

- ・公開授業を充実させ、常に授業改善に努める。
- ・シラバスに基づいて自学を行うよう指導し、自主的に学ぶ姿勢を養成する。
- ・学びの変革の取組を充実させ、授業改善を図る。

生徒指導

- ・基本的な生活習慣の確立をめざし生徒自身が主体的に動けるような指導を心がけ、問題行動の減少に努める。
- ・SNSに対する研修を保護者にさらに周知し、参加を求める。

進路指導

- ・様々な経験をとおして、自らが進路を開拓できる力を養成する。
- ・自主学习教室等を活用し、全教職員でキャリア教育を推進する。

特別活動等

- ・中・高一体化した部活動の在り方を考える。
- ・中・高一貫教育校を意識した行事（文化祭・体育祭・ボランティア活動等）の活性化を図る。

学校図書館

- ・図書館利用がさらに進むよう工夫する。
- ・読書指導をさらに推進する。

保健・安全指導

- ・スクールカウンセラーを効果的に活用するとともに、支援を要する生徒の情報交換会やケース会議をもとに、教育支援委員会を中心に支援方針の立案を行う。
- ・スクールソーシャルワーカーを効果的に活用し、様々な機関と連携を深めつつ支援の方向を探る。

人権教育

- ・差別やいじめを許さない学習環境の醸成を図る。
- ・人権統一LHRを充実させ、自己肯定感の育成、他者理解の推進を図る。

環境教育

- ・カリキュラムマネジメントに基づき、教科を通じての環境学習を積極的に行う。
- ・日常の清掃活動やボランティア活動を充実したものにする。

事務・管理

- ・中高一貫教育校に相応しい機器の導入に努める。

その他

- ・保護者への連絡機能を十分に活用し、学校情報の積極的な発信に努める。